

下 剤
日本薬局方 ヒマシ油

ヒマシ油「東海」

Castor Oil

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

- 2.1 急性腹症が疑われる患者〔蠕動運動亢進作用により腹痛等の症状を増悪するおそれがある〕
- 2.2 痔れん性便秘の患者〔蠕動運動亢進作用により腹痛等の症状を増悪するおそれがある〕
- 2.3 重症の硬結便のある患者〔下剤の経口投与では十分な効果が得られず、腹痛等の症状を増悪するおそれがある〕
- 2.4 ヘノボン油、メンマ等の脂溶性駆虫剤を投与中の患者〔これらの薬剤の吸収を促進して中毒を起こすおそれがある〕
- 2.5 リン、ナフタリンなどの脂溶性物質による中毒時〔これらの中毒物質の吸収を促進するおそれがある〕

3. 組成・性状

3.1 組成

有効成分	1mL 中 日局ヒマシ油 1mL 含有 トウゴマ <i>Ricinus communis</i> Linnè (<i>Euphorbiaceae</i>) の種子を圧搾して得た脂肪油である。
------	--

3.2 製剤の性状

性 状	無色～微黄色澄明の粘性の油で、僅かに特異なおいがあり、味は初め緩和で、後に僅かにえぐい。
-----	--

4. 効能又は効果

便秘症、食中毒における腸管内容物の排除、消化管検査時又は手術前後における腸管内容物の排除

6. 用法及び用量

ヒマシ油として、通常、成人は 15～30mL（増量限度 60mL）、小児は 5～15mL、乳幼児は 1～5mL を、それぞれそのまま又は水、牛乳などに浮かべて頓用する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

8. 重要な基本的注意

小腸の消化吸収を妨げ全身の栄養状態に影響を及ぼすことがあるので連用を避けること。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には投与しないことが望ましい。子宮収縮を誘発して流産の危険性がある。

9.6 授乳婦

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

9.8 高齢者

減量するなど注意すること。一般に生理機能が低下している。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.2 その他の副作用

	頻度不明
消化管	悪心・嘔吐、腹痛等
過敏症	過敏症状

14. 適用上の注意

14.1 薬剤交付時の注意

14.1.1 即効性であるので就寝前の服用を避けさせること。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

小腸内で胆汁共存下リパーゼの作用によって加水分解されリシノール酸ナトリウムを生成し、結腸に影響しないで小腸及び盲腸を収縮して瀉下作用を現す¹⁾。

19. 有効成分に関する理化学的知見

一般的名称：ヒマシ油（Castor Oil）

比重_{d₄²⁰}：0.953～0.965

酸価：1.5 以下

けん化価：176～187

水酸基価：155～177

ヨウ素価：80～90

性状：無色～微黄色澄明の粘性の油で、僅かに特異なおいがあり、味は初め緩和で、後に僅かにえぐい。
エタノール（99.5）又はジエチルエーテルと混和する。
エタノール（95）に溶けやすく、水にほとんど溶けない。
0℃に冷却するとき、粘性を増し、徐々に混濁する。

22. 包装

500mL（ガラス）

23. 主要文献

1) 第十八改正日本薬局方解説書 廣川書店

24. 文献請求先及び問い合わせ先

大成薬品工業株式会社 お客様相談室
〒833-0055 福岡県筑後市大字熊野字屋敷998-1
TEL: 0942-53-4662
FAX: 0942-52-8115

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元



大成薬品工業株式会社
福岡県筑後市大字熊野字屋敷998-1